

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和5年度第2回西脇市こどもプラザ運営委員会
開催日時	令和6年2月5日（月） 午後2時～3時30分
開催場所	西脇市茜が丘複合施設Miraie 多目的ホール
出席委員の氏名又は人数	9名
欠席委員の氏名又は人数	1名
出席職員の職・氏名又は人数	6名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	1名
議題又は協議事項	1 国の動向について 「こどもの居場所とアドボカシー」 2 令和6年度こどもプラザ事業実施計画（案）について 3 こどもプラザの運営について（意見交換）
会議の記録（概要）	
発言者	
事務局	○開会
事務局	○会議成立の報告 委員9名の出席により会議成立の報告
事務局	○傍聴者の報告 1名傍聴の報告
事務局	○国の動向について 昨年4月にこども基本法が施行。年末には、こども大綱、こどもの居場所づくりに関する指針がそれぞれ閣議決定されている。その中に規定されている「こどもの声を聴く、こどもの視点に立つ、こどもとともに」といっ

	<p>た点について、委員長から説明をお願いします。</p>
委員長	<p>○会議資料1に基づき、「こどもの居場所とアドボカシー」について説明</p>
委員長	<p>○議事 議事1、令和6年度こどもプラザ事業実施計画（案）について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>○会議資料2に基づき、事務局から説明</p>
委員長	<p>議事2、こどもプラザの運営について意見交換をしていきたい。国の動向、議事1も含め、何か意見等はないか。</p>
委員	<p>大型イベントの予約について問う。西脇市子育て応援アプリ（以下「アプリ」という）から予約ができるとの説明があった。予約をしなければイベントに参加することはできないのか。</p>
事務局	<p>定員200人としているイベントなどは、たくさんの方に楽しんでいただけるよう、定員以上を用意しているが、以前にはたくさんの方が受付で待たれたり、定員数を超えてから来館されたりして、イベントに参加できず、残念がられる方があった。そのため、ホームページ、子育て新聞「ことのは」、こどもプラザ内にチラシを掲示し、アプリを登録していただくよう周知している。令和6年度5月のイベントから、アプリによる予約を中心とし、その他の予約方法を検討している。</p>
委員長	<p>他の委員、何か意見等ないか。</p>
委員	<p>第1回運営委員会で出た意見を検討して、事業に生かしてもらえ、嬉しく思う。また、おやこ交流教室やつどい事業等、こどもプラザの職員の方が、楽しい企画を計画し開催してくださり、毎回楽しみに参加している。運営について4点尋ねる。 1点目は、アプリについて。今のアプリ内の情報は、</p>

西脇市のホームページ、子育て新聞「ことのは」、西脇市のライン等、様々なもので確認することができる。アプリを必ずダウンロードしなければならないような状況ではない。そこで提案であるが、おやこ交流教室の参加予約、また場所や時間変更等がアプリで周知できるとアプリの必要性が伝わるのではないか。これも提案であるが、おやこ交流教室は、子どもとの時間を大切にするというねらいのもと活動しているため、活動中の写真は原則禁止されている。職員の方が記録として写真を撮ってくださるが、保護者にその写真がすぐに届くことはない。アプリ内で活動中の写真をダウンロードできると、よりアプリを登録する方が増えるのではないか。

2点目は、絵本の読み聞かせについて。図書館でも読み聞かせ会などのイベントをしている。おやこ交流教室で、毎回最後に読み聞かせをしてもらっているが、人気のある絵本を読んでもらうことが多い。図書館の司書さんと連携し、数分で良いので、司書さんのお勧め絵本紹介の時間をとってもらえないか。そうすることで、子どもの聞く力や読書力につながると思う。また、読んでもらった絵本を探しに、図書館を利用するきっかけとなると思う。図書館に関してだが、西脇市の図書館の貸し出し期間は2週間となっている。近隣の図書館は4週間のところもある。西脇市も同じように期間を合わせることはできないか検討してほしい。

3点目は、これまでも委員会でもお願いしてきたことであるが、託児についてである。加古川市では、「かこてらす」という東加古川公民館と、東加古川子育てプラザの複合施設内で市内在住の家庭のみ、予約制であるが生後6ヶ月から就学前の子どもを、無料で預かるサービスがある。丹波市でもそのような取組があると聞く。また多可町は、無料の託児はないがその代わりに未就学の子どもを持つ家庭に、1万円給付されると聞いた。西脇市では、ファミリー・サポート・センター（以下、「ファミ・サポ」という）に登録されている地域の素晴らしい人材の、高齢の方々に託児をしてもらえるサービスがある。しかし、2時間も全く知らない方に2、3歳の子どもを預けて大丈夫か。また、預ける場所が自宅、ファミ・サポの方の自宅や、みらいえのこどもプラザであるた

<p>委員長</p>	<p>め、ハードルが高い。そこで、ファミ・サポの方とつながる機会として、こどもプラザで交流の時間を作ってもらい、ファミ・サポの方と一緒に遊んだり交流したりすると、安心して利用し、ファミ・サポを利用する壁がなくなるのではないか。</p> <p>もう一点、おやこ交流教室に関連することについて。私が交流教室に参加できない時に、実父に参加してもらったことがあった。喜んで楽しく参加したようだが、やはり周囲はお母さんの空間であるので、祖父母が参加する雰囲気ではなかったようだ。こども園でも祖父母参観があるように、おやこ交流教室でも祖父母のつどいなどがあると、親もその時間は祖父母に子どもを預けることができる日、祖父母も子どもと楽しむことができる日となるのではないか。</p> <p>委員の意見を受け、こどもプラザからそして市全体からの意見もあると思うが、回答をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>1点目の、おやこ交流教室についてだが、教室の出欠など感染症が流行している時期など、アプリをどのように活用していくと良いか、業者と話し合い検討しているところであるため、しばらく時間をいただきたい。</p> <p>教室での写真についてだが、おやこ交流教室では、親子で関わる時間を大切にしてほしいというねらいから、写真撮影を禁止している。保護者の方にはそのねらいを十分に理解していただいているため、秋に開催された北播磨地区子育てフェスティバルでは、携帯で写真を撮ることなく子どもたちとしっかり関わり、親子で思い切り楽しむ姿が見られたと職員から報告を受け、嬉しく思った。しかし、お母さん方は、その瞬間しかない子どもたちの成長や体験を、残したいという思いがあると思う。来年度の計画の中で検討し、できる限りリアルタイムで保護者の方に提供していけるようにしていきたい。</p> <p>2点目の図書館との連携についてであるが、新年には図書館と連携したイベントを開催したり、こどもプラザフェスタも、春の図書館まつりと同時開催したりして連携をしている。また、図書館の読み聞かせの時間は、こどもプラザの大型遊具を出す時間とかぶらないようにし</p>

	<p>図書館に案内するようにしている。図書館の司書の方もたくさんの知識を持っておられるので、おやこ交流教室の講座として、司書さんから絵本の大切さや面白さを伝えていただくこともあった。来年度も絵本の大切さを教室でも伝えていくようにする。また、毎月発行している子育て新聞「ことのは」の中に図書館からのお勧め絵本紹介のページを掲載しているため、活用してほしい。</p> <p>3点目の託児についてだが、子育て中のお母さん方のしんどさは承知している。託児については、今後も引き続き、検討していきたい。</p> <p>国が創設を目指す「（仮称）こども誰でも通園制度」という制度がある。親が働いていることを原則とする今の保育制度に加え、親が働いていなくても月に一定時間、子どもを預けることができる新たな通園制度である。まだその制度は始まっていないが、制度が始まれば利用していただけるのではないかと。</p> <p>ファミ・サポの託児を、こどもプラザで利用されている。子どもの様子や性格等を伝えて、託児をお願いされ子どもがよく知っている施設で知っている職員がいるため、安心して過ごしている。</p>
委員	<p>ファミ・サポという、事業は周知されていると思うが、実際に託児をしている様子が知ることができるものはあるか。</p>
事務局	<p>ファミ・サポのチラシを、子育て新聞「ことのは」に挟み配布しているが、実際の託児の様子については、今後、子育て新聞「ことのは」等でお知らせできるようにする。</p>
委員長	<p>他の委員、意見や聞きたいこと、提案等ないか。</p>
委員	<p>これまでの意見を聞き、子育て中の母親のしんどさは理解できる。以前住んでいた他市では、3世代で暮らしている方が多かった。親が忙しくしていると、祖父母が目の届くところで子どもを見ていた。親も安心して仕事ができ、祖父母も子どもたちに元気をもらうことができたため、良い関係でお互いの精神安定につながっていた</p>

	<p>のではないか。現在は、核家族が多く、子どもたちは学童を利用している。親は仕事で疲れ、帰宅後はじっくりと子どもの話を聞くことができず、子どもたちは寂しい思いをしているのではないか。孫世代、祖父母世代の2つの世代が一緒に交流できる場があれば良いのではないかと感じている。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員から世代間交流について話があった。子育て支援には大事なところである。みらいえもそうであるが広くいうと、地域や社会全体の仕組みになってくる。まちづくり、社会福祉協議会での世代間交流や、地域のつながりにもつながっていく。社会福祉協議会では、祖父母世代と様々な世代との交流、地域や学校等の交流はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>社会福祉協議会では、世代間の交流という部分では事業をしていない。高齢者、障害者の方との関わりが多い。コロナ禍以降、若い世代の家庭や母子家庭で困窮状態の方々についてはつながりがある。みらいえで開催される事業等に、なかなか気が回らない家庭が多くある。そのような家庭に対して紹介していかれたらと思っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>西脇市は、世代間の交流、世代の伝承についてどのように考えているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>西脇市は、3世代で暮らしている家庭は、ある程度あると思うが減ってきており、核家族化しているのが現状であると思う。地区のまちづくりの中では、こども会と老人会で交流している地域もあるのではないか。こどもプラザでは、3世代の事業があり、事業の中で祖父母の方を対象とした講座を開講し、地域皆で子育てを支援していけるように取り組んでいる。</p>
<p>委員長</p>	<p>祖父母の交流について、こどもプラザではどのような交流があるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>祖父母交流については、シニアカレッジの方との交流があり、伝承遊びを通して交流する機会がある。また、社会福祉協議会と連携し、祖父母講座、子育て支援ボラ</p>

<p>委員長</p>	<p>ンティア講座を開講し、子どもとの関わり方、遊び方、簡単に遊べるスキルを磨いていただいている。今後、現場で生かしていけるようにしていくことが課題である。</p> <p>教育現場では、以前より世代間交流を行っていると思うが、小学校ではどのようにすすめているか。</p>
<p>委員</p>	<p>小学校では、昔遊びをしている。凧揚げ、コマ回し、羽根つき等、ボランティアとして生涯学習課を通し、数名来ていただけるような体制ができている。読み聞かせボランティアとして、祖父母の方に来ていただいたり、ミシンボランティアの方にも来ていただいたりして、小学生と交流はできている。</p>
<p>委員長</p>	<p>組織の中の動きもあると思うので、互いに気づき合いながら交流していけると良いのではないか。</p> <p>他に意見はないか。</p>
<p>委員</p>	<p>母親の大変さ等見えていない部分がある。父親としていろいろなことに関わっていかれたらと思った。</p> <p>私も2世代で住んでいる。仕事で遅く帰ることがあり子どもの話を聞いていなかったと、自分を振り返ることができた。改めて、忙しい中でも子どもと関わることの大切さを運営委員会の中で実感することができた。</p> <p>市の方でも様々な事業をされている。今後、連携しながらも目の前の自分の子どものことをしっかり見つめ、自分ができることをしていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>1点聞きたい。娘との会話の中で、「なぜ、パパみたいな人がこどもプラザにいないのか？」と、3歳の娘がつぶやいた。こどもプラザは女性職員が多く、男性職員がいないということが、子どもにとっては素朴な疑問であるようだ。女性職員が多いことが悪いことではないが子どもたちにとって、いろいろな大人と関わったり、ふれあったりすることは大切なのではないかと思う。子どもたちが、父親世代の方と関わることで、今後、男性に対して、躊躇せずうまく関わることはできるのではないか。</p>

	<p>6月のおやこ交流教室のさくらんぼ教室に家族で参加した時に思ったことがある。その日は棒焼きパンを作って楽しむ会であり、家族でとても楽しく参加した。主人は焼き場を担当しパンを焼いたり、火の番をしたりしていたため、その日は家族一緒に過ごす時間が少なかったように思う。そのような男手が必要となる事業もたくさんあるのではないかと。人数配置等の大変さがあると思うが、前もって市役所の男性職員に要請をかけたか、募集したりすることで、こどもプラザの職員の方も助かる事業もあるのではないかと。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員の意見を聞き、自分だったらどうするか考えると、委員のご主人と同じことをしていたと思う。その時の父親の気持ちとしては、焼き場で一生懸命にパンを焼いているという自己達成というものがあったのではないかと。また、お父さん方の中にはいろいろな方がおられ、人と関わることで達成感を感じる方、自分の役割をすることで達成感を感じる方等、様々であると思う。</p> <p>子どもの率直な意見が出たが、こどもプラザから回答はないかと。</p>
<p>事務局</p>	<p>お子さんの素朴な疑問や意見に耳を傾け取り入れられること、とても素晴らしいことだと思ったとともに、良い意見を聞かせていただいた。おやこ交流教室さくらんぼの件だが、さくらんぼについては、休日版の教室ということで、お父さんの活躍の場、お父さん同士のつながりをねらいとしている。母親同士の輪は、おやこ交流教室等を通して広がっていくが、お父さんの輪は広がりにくい。今後も、お父さんが活躍する場を設定し、お父さん同士の輪が広がり、つながっていく事業を行っていきたいと思っている。職員からは、交流教室のねらいを十分に保護者の方に説明できるようにしていく。</p> <p>NPO法人みなみ会のメンバーには、男性の先生、大学生のボランティアが在籍しているため、子どもたちと関わったり学習支援をしてもらったりしている。</p>
<p>委員長</p>	<p>みなみ会の話がでたが、意見等ないかと。</p>

委員	<p>みなみ会についてだが、下校後、みらいえに遊びに来た子どもたちと遊んだり、学習支援をしたりしている。男性の学生ボランティアはとても人気があり、学生の名前を憶えている子も中にはいる。</p> <p>委員会の中で出た意見から思うことは、こどもプラザでは様々な事業が行われ、計画し進めている職員の方は素晴らしいと思っている。昔はこのような施設もなく、今の子育て中のお母さん方は良い環境があり、支援してくれる方がいることを羨ましく思う。みなみ会の活動時に、外からこどもプラザ内を見ることがある。保護者は子どもを遊ばせ、自分たちは会話をしたりスマートフォンを見たりして、子どもと関わって遊んでいない方も中にはいる。今ある良い環境、支援してもらえらることにあぐらをかくのではなく、しっかり子どもを見つめ、子育てをしてほしいと願う。</p> <p>こどもの居場所についてだが、みらいえに、下校後、多くの小中高生が来る。家に居場所がなく、施設の隅でゲームをしているだけの子や、「遊び相手がいない。いじめられるから。」と言う子がいた。一緒に遊んだり声をかけたりすると、とても喜んでいた。みらいえや、こどもプラザは、そのような子たちの居場所となっているのだと思う。</p>
委員長	<p>委員の皆様から、多くの貴重なご意見をいただいたので、今後の事業運営に反映していただきたいと思う。</p> <p>こどもプラザで判断できること、もう少し大きな枠組み、国や市全体で考えていかなければならないことがある。今回出た意見を丁寧に捉えていくと、時間が必要なこともあると思うが、今後、検討して行ってほしい。</p> <p>○議事終了</p>
事務局	<p>令和6年度こどもプラザ事業実施計画について、多くの貴重な意見をいただき感謝する。皆様からいただいた意見や知恵をお借りしながら、子どもの最善の利益を考え、こどもプラザが安全で安心して過ごせる場所となるよう取り組んでいく。御協力、御支援をお願いする。</p>

議事録については、要点をまとめ、ホームページで公表予定である。

○閉会

問合せ先

西脇市福祉部こども政策課 こどもプラザ
TEL 0795-25-2801 / FAX 0795-25-2220